

令和2年度 第3回石狩市男女共同参画推進委員会 議事録

日時 令和3年2月8日(月) 18時00分～19時20分

場所 石狩市総合保健福祉センターりんくる2階 交流活動室

議事次第

◇開会

◇委員長挨拶

◇議事

<報告事項>

- 1 令和2年度男女共同参画意識に関するアンケート結果について
- 2 第4次石狩市男女共同参画計画にかかるパブリックコメント手続きに対する意見の検討結果について

<協議事項>

- 1 第4次石狩市男女共同参画計画最終案について

◇その他

事務局より事務連絡

◇事務局挨拶

◇閉会

出席者

委員			職員(事務局)			
役職	氏名	出欠	所属	役職	氏名	出欠
委員長	阿部 包	○	環境市民部	部長	松儀 倫也	○
副委員長	菅原 亜都子	×		課長	時崎 宗男	○
委員	坂田 育子	○	広聴・市民生活課	主査	木本 明美	○
	船橋 真衣	○		主任	小林 利恵	○
	相田 珠美	○		主事	小林 要	○
	伊藤 美由紀	○				
	船橋 秀樹	○				
	品川 洋之	○				
	渡辺 小枝子	○				
	新田 大志	×				
	沼田 式朗	○				

傍聴者 1名

## ◇開会

### 【事務局（時崎課長）】

定刻となりましたので、これより令和2年度第3回石狩市男女共同参画推進委員会を開催いたします。開会にあたり皆様にご報告がございます。本推進委員会の公募委員でいらっしゃった造田明美委員が昨年11月25日にご逝去されました。ここに謹んでお悔やみを申し上げるとともに、これまで造田委員には、防災マスターというお立場から第4次計画にも新たに盛り込まれました防災対策への男女共同参画の視点の導入など、積極的にご提言いただいたことに心から感謝申し上げたいと思います。また、後任の委員につきましては、現在広報いしかり2月号にて募集中でございます。任期期間は、造田委員の残りの任期の令和4年3月31日までとなります。事務局としましては、造田委員のように防災対策への男女共同参画の視点の導入に対して知見の深い方をお願いできればと考えております。以上ご報告でした。

続いて欠席委員報告です。本日は全員出席の予定ですが、菅原副委員長、坂田委員、新田委員の3名はまだお見えになっていない状況でございます。欠席のご連絡はいただいておりますので、ほどなく到着されるかと思っております。

続いて、本日の資料の確認をさせていただきます。事前に配布させていただきました

資料1 令和2年度男女共同参画意識に関するアンケート結果（2か所止め）

資料2 「第4次石狩市男女共同参画計画の策定について」に対する意見の検討結果（A4横で左方止め）

資料3 第4次石狩市男女共同参画計画案の修正箇所について（1枚もの）

資料4 第4次石狩市男女共同参画計画案（カラー印刷2か所止め）

となっております。お持ちでない方は、事務局にお声かけいただきたいのですが、いかがでしょうか。

本日の会議の終了時刻は7時半を予定しておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたり、阿部委員長より一言ご挨拶をいただきます。

## ◇委員長挨拶

### 【阿部委員長】

みなさんこんばんは。

先ほど事務局からも報告がありましたが、この委員会に非常に貢献されていた造田委員が急逝されました。私としても現役の委員が任期途中で亡くられるのは初めてで、情報をいただいたときはびっくりしてしまって、防災マスターとしてもご意見いただき、そちらの方でもご尽力されていらっしやいました。ここで造田委員にはお礼申し上げたいと思います。今日は、第3回男女共同参画推進委員会で、令和2年度の最後の会議になります。いつもの通りご協力をお願いいたします。簡単ですが挨拶にかえさせていただきます。

## ◇議事

### <報告事項>

#### 1 令和2年度男女共同参画意識に関するアンケート結果について

### 【阿部委員長】

では議事に入ります。まず、1 令和2年度男女共同参画意識に関するアンケート結果について報告を受けます。事務局は説明をお願いします。

【事務局（木本主査）】

事務局の木本です。それでは、男女共同参画意識に関するアンケート結果についてご説明いたします。

資料は【資料 1 令和 2 年度男女共同参画意識に関するアンケート結果】になります。

まず概要ですが、1 目的は、第 3 次計画の成果指標の進捗状況と男女共同参画に関する市民意識を把握し意見等を今後の事業に活用していくためです。対象は、市内居住の 20 歳以上の男女 1,000 人を地域別・年代別で無作為抽出しています。期間は令和 2 年 11/24 から 12/8 の 2 週間でした。次に回収状況ですが、回収件数は 246 件で回収率は 24.6%、昨年度から 21 件 2.1%の増加で、5 年間のうち最も高い回収率となっています。

性別ごとの回収率は、男性は 19.4%、女性は 29.4%、性的マイノリティの方に配慮し性別選択を必須項目としておらず、未記入の方が 2 名いらっしゃいました。

2 ページに移りまして、2. 年齢別の回収率は、年齢が上がるにつれ上昇傾向にあり、20~29 歳の若年層の回収率が 11.6%と低い状況です。男性は 70 歳以上が高くなっていて、女性は 60~69 歳が高い回収率となっています。

3. 地域別の回収率は、④の八幡、親船、生振、緑ヶ原地区だけが 10%台ですが、他は 20%以上の割合となっています。

3 ページに移りまして、4. 回答方法は 郵便と Web での回答の 2 種類を設けましたが、246 件中、全てが郵便での回答で、Web での回答はいらっしゃいませんでした。

4 ページからは、各設問の分析結果となります。今年度が第 3 次計画の最終年度であることから、結果の主要なものにつきましては 5 年間の結果も合わせて載せております。

問 1 は、「男女共同参画社会」という言葉の認識割合になります。

「男女共同参画」という言葉を見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した人の割合は、全体で 50.8%、男性が 55.7%で女性が 48.3%となっています。第 3 次計画期間中の傾向としましては、昨年度までの 4 年間は 50%台後半で推移して、女性より男性の方が高い割合となっていますが、今年度は、第 3 次計画期間中で残念ながら最も低い数値となりました。どの年度も男性と女性の認識している割合の差は 10%以上開きがあります。

男女/年代別の割合は、男性は 20~29 歳と 70 歳以上が 60%以上、女性は 20~29 歳が 73.3%と高い一方、男性女性どちらも 30~39 歳、50~59 歳が 40%台と低くなっています。

5 ページは、男女それぞれの「男女共同参画社会」という言葉を見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した割合の年代別のグラフとなります。

まず男性は、調査年度によってばらつきがありますが概ね 50%以上の方が認識しています。特に 70 歳以上は認識している割合が毎年度 65%以上と高くなっています。

つぎに女性は、20~29 歳は認識している割合が概ね 70%以上と高い一方で、それ以外の年代では概ね 50%台以下と低くなっています。

その中でも最も低い 30~39 歳の世代は子育て世代でもありますので、児童生徒へのリーフレット配布などにより子どもと一緒に考えてもらう取り組みや学校と連携した取り組みなどを第 4 次計画でも継続実施してまいります。

6 ページは、問 2 の「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認識割合になります。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した方の割合は、全体で 32.9%、男性が 38.1%で女性が 29.9%となっています。今年度は、第 3 次計画期間中

で残念ながら最も低い数値となりました。男性の認識している割合は、女性の認識している割合よりも高いことが見受けられます。

ここまで急激に下がった原因ははっきりしませんが、コロナ禍で、パネル展なども縮小の傾向があり、周知啓発の機会が減ったことなども一因ではないかと思えます。

7 ページは、男女それぞれの「ある」と回答した割合の年代別のグラフとなります。

まず男性は、20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳は調査年度によってばらつきがありますが、平均すると年代が上がるにつれ認識している割合が低くなる傾向となっています。

つぎに女性は、全体的に認識している割合が低く、年代が上がるにつれ認識している割合が低くなる傾向となっています。

このことから、問 1 同様、学校と連携した取り組みやパネル展などでのロールモデルの周知啓発などを今後も継続実施してまいります。

8 ページから 10 ページは、問 3 の「DV にあたる行為」の認識割合になります。

この 8 つの項目のうち、7 番目の項目は、昨年度までは、「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う」という設問項目でした。この点につきまして、前回 11 月の第 2 回推進委員会の中で、「かいしょうなし」という言葉は若い方には意味が伝わらないというご意見や、「誰のおかげで生活できるんだ」は、男性から女性に対しての DV で、「かいしょうなし」は女性から男性に対する言葉の DV であるので、性別にとらわれない文言での設問が良いのではという委員の皆様からのご意見をいただき、推進委員会の時間中では決められなかったため、文言につきましては事務局に一任いただき、性差によらない表現を考え、「役立たず」など、人格を否定するような暴言を吐く」という設問にさせていただきアンケートを実施させていただきました。

全ての項目で半数以上の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答しています。どの年度も 1、2 の身体的な暴力や 4 の性的な暴力に比べ、3、5～8 の精神的な暴力について認識している割合が低く、特に「5 何を言っても長期間無視し続ける」、「6 交友関係や電話を細かく監視する」が 50%台となっています。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合は、ほぼ全ての項目で上昇傾向にあります。

項目別に見ていくと、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という男女間の認識の差については、「3 なぐるふりをして、おどす」で約 10%、「8 大声でどなる」で約 20%男性より女性の方の認識が高くなっています。これは、なぐるふりをしておどされたり、大声でどなられたりといった DV を受けるのが、男性より女性の方が多いためではないかと推測されます。

また、「5 何を言っても長期間無視し続ける」や「6 交友関係や電話を細かく監視する」という行為は「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」と認識している割合が男女ともに 30%以上と高くなっています。

DV に関しては、内閣府の発表では、令和 2 年度の相談件数が、4 月から 11 月までの 8 か月間で 13 万 2355 件となり早くも令和元年度を 1 万 3 千件上回り、過去最高となっているとのこと。24 時間体制で、電話やメールで相談を受付するなど窓口を充実させたこともありますが、やはり、緊急事態宣言に伴う外出自粛要請や在宅勤務などの増加で、家庭内で過ごす時間が増えたこと加えて、雇用や生活への不安などから暴力に至る事例が増えているようです。

このことから、11 月の女性に対する暴力をなくす運動期間はもちろん、コロナ禍で、なかなか思うような街頭啓発や、周知活動もできない中ではありますが、できる限りたくさんの方の目に触れるよう引き続き第 4 次計画でも事業を展開してまいります。

11 ページから 13 ページまでは、問 2-2 の「あなたがワーク・ライフ・バランスを実現するために、心掛けていること」についての記述のご意見となっています。

この設問は、昨年度までは問 4 としていたものと同じ内容なのですが、昨年 11 月の第 2 回推進委員会において、委員のみなさまからご意見をいただき、問 2 の「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認識割合の次に設問を移動させてお聞きしました。

回答につきましては年代と性別を分けて記載させていただきました。

各年代男女合計して 6~10 名程度の回答をいただいております。男女別では、女性は 40 代、50 代、男性は 70 代以上のご意見が最も多く、女性が 24 件、男性が 26 件のほぼ同数の方から回答をいただき、合計すると 50 件のご意見をいただきました。

最後に 14 ページから 19 ページまでは、問 4 の「あなたが日ごろ感じている男女平等や男女共同参画についてのお考えや意見があれば」という自由記述のご意見となっています。この設問は、昨年度まではありませんでしたが、昨年 11 月の第 2 回推進委員会において、委員のみなさまから「広く市民の方からご意見を聞きたい」とのご意見をいただき、新たに設問を設けたものです。

回答につきましては問 2-2 と同様に年代と性別を分けて記載させていただきました。

各年代男女合計して 8~16 名程度の回答をいただいております。男女別では、女性は 60 代、男性は 70 代以上のご意見が最も多く、女性からは 54 件、男性からは 29 件の回答をいただき、合計すると 83 件のご意見をいただきました。

アンケート回収数が 246 件でしたので、自由記載としては、問 2-2 と問 4 にご回答いただいた件数を合わせると、半数を超える約 54%、133 件のご意見が寄せられたこととなります。多くの意見が寄せられたことにつきましては、所期の目的を達成できたのではと思っております。

傾向としましては、やはり若い年代は、現役世代ということで、仕事や職場と家庭と趣味のバランスの取り方について難しい現実と直面しているというご意見が多くありました。今回、ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画社会の用語の周知度は、第 3 次計画の中では最も低い数値になった一方で、幅広い年齢層で、ワーク・ライフ・バランスの実現のためによく職場や、ご家族、お孫さんなどと話すことを心掛けているという意見が見受けられたことは、喜ばしいことだとも感じました。

以上が議事 1 の令和 2 年度男女共同参画意識に関するアンケート結果の説明となります。

#### 【阿部委員長】

ありがとうございます。ご発言いただく前にお願ひがあります。議事録作成のために録音をしていますので、私に指名されてから発言していただきますようお願いいたします。また、ご発言する前にお名前を言っていただき、なるべく大きな声でご発言いただくようお願いいたします。それでは、ただご説明のありました資料 1 についてご質問等がありましたらお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

#### 【阿部委員長】

今の社会というのは、どこもそうかもしれませんが、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスについては認識している人と、していない人が分かれてしまっている。そういう状況なので、もしかすると委員の皆さんや私が期待しているほどではないのかもしれませんが。自由記述欄を見ると関心を持っている人は、要望も出していると思う。非常に難しいが、広聴・市民生活課でも継続してアナウンスをする。効果的な、目につくにはどうしたらよいだらうと考えながら根気強くやるしか

い。できれば、周知率は7割ぐらいあるとうれしい。すぐに行くわけではないのですが、5年計画で今までを見ると5年たっても数%ですよね。例えば10%上げるとかいう目標を掲げていくことが必要なのかな。この手のことは地道な作業なので、めげずにやるしかない。皆さんいかがでしょう。

【沼田委員】

沼田です。今回もアンケート、郵送とWebで回収されたが、今回は、Web回答はゼロで、Web回答は3年前ぐらいからやっていたかと思った。それほど回答は多くなかったと記憶しているが、若い世代は取っ付きやすいのかなと思ったが、こういう結果が出てなんでだろうと思っている。何か事務局で思い当たる節はありますか。

【事務局（時崎課長）】

沼田委員ご質問ありがとうございます。Web回答につきましては、正確ではありませんが、数年前から行って、回答は数件で2桁に行ったことはなかったと記憶している。今回も数件は回答があると見込んでいたが0件とは我々もまさかというのが正直なところ。システムが昔のままで、取っ付きにくさを感じたのが一因では。今後改善されていけばWeb回答や若い方はスマホ操作になっているので増えていく。情報管理の担当と相談して地道に進めていく。今回ゼロだからやめるということではなく引き続きこの手法は続けていく。

【沼田委員】

1、2年で大幅に伸ばすのは大変なことだと思います。地道にコツコツと続けていけば見えてくると思うので、ぜひ情報管理と情報をうまく共有できれば、回収率も上がると思う。期待しています。

【阿部委員長】

ありがとうございます。Webについてはあと20年もすれば、Webのほうが良いとなる。50歳ぐらいまでならWebに対応できる。その世代が70歳になったら、その下の世代は全部Webですよ。なので、地道に20年間頑張るといいのかな。いかがでしょうか。もし意見が無ければ次に進みます。

<報告事項>

2 第4次石狩市男女共同参画計画にかかるパブリックコメント手続きに対する意見の検討結果について

【阿部委員長】

次は、報告事項2第4次石狩市男女共同参画計画にかかるパブリックコメント手続きに対する意見の検討結果についてです。事務局は説明をお願いします。

【事務局（木本主査）】

それでは、第4次石狩市男女共同参画計画にかかるパブリックコメント手続きに対する意見の検討結果について説明させていただきます。

資料は資料2の「第4次石狩市男女共同参画の策定について」に対する意見の検討結果」になり

ます。

昨年12月24日から本年1月24日までの1ヶ月間、第4次計画についてパブリックコメント手続を行い、意見提出者は1名、意見の件数は2件ありました。ちなみに前回の第3次では意見提出者は同じく1名、意見の件数は4件ありました。

意見の検討経過としましては、本年1月27日に環境市民部広聴・市民生活課において意見の検討を行い、1月29日に企画経済部企画課合議の上、市長決裁がおりております。

1ページ目をご覧ください。2つのご意見どちらもP32 施策3 多様性を尊重する環境づくりについてのものです。

1つ目のご意見は、施策の方向に人権教育・意識啓発だけではなく行動計画策定が必要というご意見でした。検討結果は記載のとおり参考とさせていただきます。検討内容としましては、多様性を尊重する環境づくりについては、第4次計画にて新規に加えた施策であることから、まずは人権教育・意識啓発に努めることから始め、将来的には、ご意見を参考に行動計画の必要性についても検討したいと思っております。

最後に、2つ目のご意見は、《実施施策事業》について、新規に取り組む姿勢は評価しますが、石狩市としての相談窓口の設置も必要というご意見でした。

検討結果は記載のとおり、意見に基づき原案を修正するため、採用とさせていただきます。

ここで、資料3 第4次石狩市男女共同参画計画案の修正箇所について、資料2と合わせてご覧ください。修正前が上段で、修正後が下段となっております。

検討内容としましては、すでに石狩市の相談窓口としては、本日出席されておられます、本推進委員会の伊藤委員が所属されておられる、9名の人権擁護委員が月1回第3火曜日に、人権相談を受け付けていることから、表の③相談窓口の周知については、説明文の冒頭に「市や」という文言を追加して、「市や法務局が設置する人権相談や、・・・」という表現に変更し、第4次計画では、性的マイノリティに関する各種相談窓口案内ページを市ホームページ内に新たに設け、必要とされる方にとってわかりやすく広報などで周知してまいります。

第4次石狩市男女共同参画計画にかかるパブリックコメント手続に対する意見の検討結果についての説明は以上です。

#### 【阿部委員長】

ありがとうございました。今説明頂きました資料2、資料3のお一人の方から意見を頂き対応した。よろしいでしょうか。

#### <協議事項>

##### 1 第4次石狩市男女共同参画計画最終案について

#### 【阿部委員長】

それでは、次は協議事項になります。

第4次石狩市男女共同参画計画最終案について、事務局は説明をお願いします。

#### 【事務局（木本主査）】

それでは、資料4についてご説明いたします。

委員の皆様にはカラー版の第4次計画書案をお送りさせていただきました。

このたびの第4次計画の内容につきましては、昨年11月に当推進委員会においてご審議いただい

たきましたが、その時点では、挿絵や、写真などは載っておらず、後に、パブリックコメントでの市民参加手続の際において、挿絵や写真等を入れております。具体的には P19、P21、P23、P25、P29、P30、P31、P32、P34 でございます。

パブリックコメントについては、お一人の方から意見が提出され、内容につきましては先ほど報告事項の 2 でご説明した通りに修正をしたものを掲載済みでございます。修正箇所は、計画書の P 32 をご覧ください。

今回の第 4 次計画では、昨年の厚生常任委員会において議会に計画案について説明させていただきました。委員会の終了後に、議員の方に、ピンクやブルーなどの特定の性別を意識させる色を使うことはさせたほうが良いのではというご意見をいただき、多様性について新たに計画に盛り込まれることから、計画書内の配色につきましても、特定の性別を想像させるような色はできるだけ避けました。計画書案の P1 をお開きください。

第 1 章 計画の策定にあたってなど、各章のタイトルについては緑色とし、また、各章の項目についても背景を緑色としました。

P2 をご覧ください、計画の位置づけの法律の内容紹介につきましては、黄色の囲みとし、続いて P3 の策定体制の図につきましても、黄色の囲みや、オレンジ、紫色の矢印とさせていただいております。

続いて、P4 からの市民意識調査のグラフについては、オレンジ系の色を基調に何色かを使い分けて表現させていただいております。

また、P18 からの実施施策事業の表につきましてもオレンジ色で統一させていただきました。

ただし、P14 の成果指標の達成度と、P34 の成果指標につきましては、実施施策事業の表と区別する意味合いから赤系の色を使わせていただいております。

計画案がカラーになり、挿絵等が挿入されたことで、委員の皆様が受けられる印象も変わられたのではと思います。改めてご覧いただき気になった点などございましたら、委員の皆様からのご意見を承りたいと存じます。

その上で委員の皆様から一人一言、この第 4 次計画についての思いをお話いただいた上で、問題がなければ、この計画案について承認をいただければと思っております。

私からは以上です。

#### 【阿部委員長】

ありがとうございます。

いかがでしょうか。まず質問等がありましたらお願いいたします。結構色は苦勞されたようです。よろしいでしょうか。それではどちらから行きましょうか。最初に話したほうが話しやすい。ではお願いいたします。

#### 【坂田委員】

石狩中学校の校長の坂田です。今日は渋滞していたために遅れてしまい申し訳ありません。計画というよりも、中学校の様子をお話して参考にさせていただきたい。市内に 16 校小中学校がありますが、女性校長は 3 名。15%を目指していますが、12.4%で少し足りません。管内的にも女性管理職を 15%という目標はありますが、増えているがそこまで到達していない。子育てなど条件はすごく良いのです。休暇もいただけるし、男性職員も育児休暇も取れますが、それでもやはり少ない。自分の姿を見ていいなと思っただけの働きかけが必要と思う。



中学生は、デートDVや性的マイノリティ等にも関心があります。今年はコロナ禍で講師を呼べなくてできなかった。一昨年は講師の方をお呼びして全校生徒で話を聞いて、興味、関心を深めた。小学校は小学生にわかる、中学校は中学生にわかる、段階的に学習の場面を設けることは大事なと思う。

#### 【相田委員】

相田です。計画書ですが、色使いとか読みやすくなって良かった。とても目を引くような色使いがされていて良かった。オリンピックの森さんの発言が、今女性に対する偏見とか世界的に話題になっている。日本ってそんな国なのかと思われている。私が男女共同参画推進委員会に出席して皆さんからいろんな意見を聞いて、日本はどうしても遅れていると感じた。今回の森さんの発言で目の当たりにした。皆さんにこういうことを伝えていければいいなと思います。

#### 【品川委員】

石狩市の労働組合の品川です。今の石狩市役所ですが、制度的なところでは、育児休業など男女も取れる制度はありますが、やはり男性職員の取得率はとても低い。制度があってもみなさんの意識が低いのかなと思うところがあります。アンケートの自由筆記のところを見ると、男女平等のことや昭和の世代という記載もあった。全員が同じ意識を持つのは難しいのかなとアンケート回答を見て実感した。

#### 【渡辺委員】

渡辺です。カラーの冊子はとても見やすく、わかりやすくなって良かったと思った。色にもこだわるんだなということ、改めて気づかされた。ワーク・ライフ・バランスなのですが、高齢の母のところにもアンケートが来たが、ワーク・ライフ・バランスを日本語の一言で言ったらどうなるのか。そういう風にかかれていけばもっとわかりやすかったかなと思いました。

#### 【沼田委員】

一般公募の沼田です。計画書に、男女のイメージを付けないように、よく使われる赤、ブルー系の色を使わないで、こういったカラーの資料を作るのは、私も資料を作るが、どうしても使いたくなる色だと思うので、非常に苦勞されて作られたと感じた。写真や挿絵が入って、パラパラとみてもそこで目が留まる。見てほしいところにワンポイントで図が入ると興味を引く良い形になっていると思う。皆さんもおっしゃられていたが、男女共同参画で女性の活躍の場をというところで、私の会社でも女性社員はいるが、どうしても若い世代で、中堅以上になるとなかなか女性社員がいない。個々がもっと働きたいと思い、会社がそういった環境を受け入れる体制ができればもっと良くなっていくと思う。男性の育児休暇についても、制度があっても、取りたくても周りが何となく取りにくい雰囲気になってしまっていることがまだまだあると思う。私も微力ながらこういった機会を頂いていることをきっかけに、いろいろな所で少しでもそのような環境や空気が出てくるような手立てができればと思っている。石狩市も今後ますます環境づくりが大切になってくると思うので、引き続き推進していただければと思う。

#### 【船橋（秀）委員】

船橋です。この度の、共同参画計画書は非常に見やすくできていると思う。目標値が最終的には

100%で、現在令和2年度で平成28年度よりは若干下がっているところがある。こういった資料を通じて、男女共同参画が少しでも広がって目標値に少しでも近づければと思う。これからもよろしくをお願いします。

#### 【伊藤委員】

人権擁護委員をしております、伊藤です。人権擁護委員をしているといっても全てに詳しいわけではなく、日々勉強しながら子どもたちに人権教室などを行っている。昭和生まれの人は色々な時代を過ごしてきて、あまりにも難しく考えてよくわからないということになっているとも思う。色のことも本当にご苦労されたと思う。大人はこれを見て、カラーに配慮して感心して良くなったなと思うが、子どもたちは、色に関して自由な認識を持っていることを、ランドセルを見て思う。女の子で青系でもおかしくないし、男の子でも赤のランドセルを持っている子もいる。大人のほうが過敏に考えている。

DVのことで、高校生のデートDV講座で、女性ばかりが被害者と考えがちだが、男性の被害者もいると話をする。視聴するDVDでも男性の携帯を取って女性が連絡先を消す場面を見せている。男性が被害者だが、男性は話すところがない。話しても信用してもらえない。全ての人たちが何か声を発するところがこの男女の場所かなと思う。ジェンダーのこともあるが、DVの被害者には男性もいることも含めて、市の方で声を上げてくださって、それが見えるといいなと思いました。内容はまとまっていて私も理解しやすかったです。

#### 【船橋（真）委員】

樽川中学校の養護教諭の船橋です。まずこの男女共同参画計画を見せていただいて、先ほど色の話が出たので驚いた。そこまで気を使わなくてはならないのかというのが率直な感想です。資料を見て感じたことは、私は子どもがいるのですが、子どもも高校生と大きくなって、早いうちに子どもを産んだので、今、自分の職場で私と同年代の方はお子さんが小学生などでもっと小さい方が多い。自分の時は、正直夫も家事育児に参加してくれなかった。実際に夫も職場で子どものことで休んでいる人はほぼいないし、自分は男だから子どもが熱を出したから休むとか病院に連れていくために休みを取るのはいづらいついていて、仕方ないと思っていた。でも、自分の周りを見ると男性も、子どもの調子が悪いとか奥さんが仕事で遅いので早く帰りますとか、良い時代になったなと見ていた。自分の周りの小さな世界では男性も育児に参加するようになったと感じていたが、資料を見ていると、もしかしたら、まだまだなのかな。

私は夫の両親と同居しているが、会話の中でも、なかなか言っても伝わらない。夫の父は、私の娘に、「女なんだから勉強しなくてもいい」というし、夫の母が夫に「あなたは男なんだから力仕事をしなさい」と言うのを聞くと、そうじゃないのと思うけれど、言えなかったり、伝わらないと感じている。こういう考えが広がっていけばいいと日々思っています。

#### 【阿部委員長】

色々なことを考えていまして、男女共同参画とか、ワーク・ライフ・バランスを推進するためには先行する職場が必要なのです。一番良いのは地方自治体とか公立学校の教員など、そこが男性職員も教員も育児休暇を取らないと肩身が狭いぐらいの環境にならないと。教育現場がそういうものと周知されるとその他の職場もそうだとなくなっていくと思うのです。多分そういう風にはいかないのは、おそらく育児休暇を取らない人の方が職場で優遇されるという風潮が残ってしまっている。言葉だ

けで男女共同参画とかワーク・ライフ・バランスとか言っても、実態が伴わない。ですから、先行するところはどんどん先行する。藤女子大学では教職関係の男性が育児休暇を取りました。いいなと思いました。男性も育児休暇を取る習慣が一般的になると思いました。たまたま奥様が北大の先生なので、奥さんだけが育児休暇を取るとはならなかったのかもしれない。

もう一つ、第4次計画はよくできたが、もう一方で男女共同参画はまだ周知されていない中で社会はLGBTQとなってきたているが、男女共同参画は男性女性だけが視野に入っている。あまり男女共同参画と言いつつ、トランスジェンダー、ゲイ、レズビアンの方は、私たちは入っていないと疎外感を感じる。石狩市ではこの委員会では議論ができないが、近い将来は男女共同参画計画ではないものを打ち出せたらいいなと思います。以上です。他に言い足りないことはありませんか。

【阿部委員長】

他にご意見がなければ、第4次男女共同参画計画最終案をご承認いただける方は挙手をお願いします。

【全委員】

はい。(出席委員全員挙手)

【阿部委員長】

第4次男女共同参画計画最終案は承認されました。

◇その他

【阿部委員長】

最後に、事務局より事務連絡をお願いします。

【事務局（木本主査）】

計画案をご承認頂きありがとうございました。今後のスケジュールについて私からご説明いたします。計画案につきましては、2月末までに第3回男女共同参画行政推進会議で計画案決定し計画策定完了となります。計画書はこれまでの計画書と同様に、ホームページでご覧いただけるようにいたします。そして4月より第4次計画をスタートさせ各施策事業を展開していくこととなります。今年度は、計画策定年のため、コロナ禍の中でありながら、委員の皆様には3回にわたりお集りいただきました。来年度は、2回となる予定です。初回はおおむね夏ごろを予定しております。また、近くなりましたら、日程調整のご相談をさせていただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

今年度のロールモデルの方につきましては、現在、石狩消防署にお勤めの女性消防署職員の方をお願いする予定で考えております。以上です。

◇事務局挨拶

【阿部委員長】

それでは事務局からご挨拶をお願いします。

【事務局（時崎課長）】

本日で今年度最後の推進委員会となりますので、事務局から一言ご挨拶申し上げます。

まず今年度は、計画策定年度ということで、皆様の貴重なお時間を割いていただき、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。皆様のお手元に新たな計画案があるわけですが、この度、承認をいただきまして次年度に向けて計画の船出となる。正式には行政推進会議をもってとなるが、この案をもって、来年度新しい計画として打ち出していこうと考えている。皆様から一言ずつということでマイクを向けさせていただいた。闊達なご意見をいただきありがとうございました。特に、計画をきっちり見ていただき、色使い、見栄えにお褒めの言葉をいただき、事務局としてもありがたいと感じているところである。色使いにつきましては、事務局がたまたまご指摘を頂戴するまでは何の知見もなかったのですが、ご指摘されて、新たな気づきを得て、それを今回の計画に反映させていただいた。皆様からの反響があったことは嬉しい限りです。ただ、計画案のP14計画指標の達成度というところについて、成果指標のうち3つが令和2年度の数値が下がっている現実も受け止めて次年度の計画に生かしていきたい。今年度にお集りいただくのは最後なのですが、皆様の任期はもう一年残っておりますので、第4次計画を皆様と一緒に進めていきたい。計画は書き物であってはならず、命を吹き込むのは我々の取り組みになる。改めて思いを新たに進めてまいりたい。今年度の結びとさせていただく。誠にありがとうございました。

◇閉会

【阿部委員長】

長時間にわたってのご議論、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和2年度第3回石狩市男女共同参画推進委員会を閉会いたします。

引き続き来年度もよろしく願いいたします。気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

令和3年2月26日議事録確定

石狩市男女共同参画推進委員会

委員長 阿部包